

社員の働きがいと 生きがい幸福度アップを目指し 社内外の仲間と幅広い活動を展開

高木建設株式会社



大きな反響を
呼んでいる女
性の健康ある
カルタ



長野市安茂里^{あもり}に本社のある高木建設株式会社は、地元である北信地方の公共施設をはじめ、住宅・店舗の建築、各種リフォームや土木工事など人々のニーズに応じて生活基盤を支える快適な環境づくりに尽くしてきた。

そんな同社では、2016年頃に社員の高齢化や傷病による離職が相次ぎ、人手不足と生産性の低下に危機感を抱いたことをきっかけに健康経営に取り組み始めた。まず、協会けんぽ長野支部の「健康づくりチャレンジ宣言」へエントリーしたことを皮切りに、2017年から健康経営優良法人に7年連続、2021年からはブライツ500にも認定されている。

そこで、同社における産業保健活動を主導している常務取締役の高木亜矢子さんにお話を伺った。

社員に近いところで目を配り 役員自らがトータルで取り組む

同社では2人の衛生管理者と21人の安全衛生委員会スタッフで保健活動を行っている。自身も衛生管理者である高木さんは、「安全、健康についてはメンタルなども含め、全部の面倒をみている感じですね」とその役割を語る。常に社員に近いところで目を配り、自分の言葉で健康への思いを伝えるようにしているという。例えば健康診断で要精検や要治療といった結果が出た社員には1人ずつその結果を渡し、「ここが要精検と出ていたので、ぜひ受診してください」と伝え、数カ月後にはアンケートで、「行きましたか?どんな様子でしたか?」と再確認する。

「要精検が出た社員が何度言っても行かないので、私の持病の定期検診も兼ねて『一緒に行こう!』と誘って精密検査に行ったら、思わしくないところが見つかって、すぐに総合病院に行ったということもあります」。

同社が現在、力を入れているのが多彩な人材が活躍するダイバーシティ企業を目指し、ワーク・エンゲージメントとウェルビーイングを高めることだ。そのために重視していることのひとつにメンタル面の健康がある。

「2019年から毎年社内アンケートを行っているのですが、『協力してお互いに理解し認め合っているか』や『仕事をしていると活力がみなぎるように感じるか』という点がすごく低かったのです。プレゼンティーズムをもたらすストレス原因の約50%が自分の仕事のこと、であることも分かりました」。

そこで同社では心の健康づくりに取り組み、コミュニケーション・自己啓発支援制度を導入した。

コミュニケーション支援はプライベートも含め、社員が5人以上集まったら飲み会でも旅行でも会社で補助するという制度だ。会社の補助があることによってデイキャンプや焼肉パーティーをしたり、先輩と温泉に行ったりと社員同士の交流を深めるいい機会となっている。

また、自己啓発支援として、建設関連以外のことでもスキルアップのための費用を会社が補助することでコミュニケーションがあまり得意ではない社員も、資格の取得や自分の趣味を磨くことでワーク・ライフ・バランスが充実するように工夫した。その結果、「お互いに理解し認め合っている」という社員の割合は2020年の42%から2023年は71%に、「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」という社員は同じく2020年の41%から2023年の55%へと大きく向上した。さらに、アブセンティイズムについても体調不良で1日以上休んだ社員が2019年には58%いたのに対して、2022年には20%へと減少させることにもつながっている。

4 社合同健康研究会で社内外に活動の場を広げる

こうした取り組みについてさまざまな機会に事例発表を続けるうち、新たな出会いがありブライド500を取得している4社が集まって、さらに健康について取り組んでいこうと立ち上げたのが4社合同健康研究会*だ。地域も業種も異なる中小企業4社が、健康課題の解決と働きやすい職場環境の構築を目指すことを目的に2021年から活動を始めている。

「北信地方の事例発表は当社、中信地方での事例発表には松本市のルピナ中部工業さんが登壇することが多かったのですが、その縁で同社の社長からご連絡をいただいて『他の2社さんともぜひ一緒に健康経営に取り組んで行きましょう』とお誘いを受けました。その集まりに参加したら大変よい会で、経営の相談をしたり、社員同士が交流して健康に関する取組みをしたりと活発に活動しています」。

4社合同健康研究会での活動のひとつに「女性特有の病気に関する取組み」がある。4社ともに女性社員の比率が低かったのだが、4社の女性社員で集まって研修を受けたり、女性ならではの健康問題を話し合うなかで

生まれたのが、働く女性ならだれでもうなずける症状をまとめた、「女性の健康あるあるカルタ」だ。

「オンラインで集合して更年期とPMS（月経前症候群）のセミナーを受け、その後女性のあるある症状を1人ずつみんなが上げていき、こういうのにしようとか絵も描いてカルタを作成しました」。高木さんが発案者で、それを女性メンバーがカルタにまとめ、イラストは浅野製版所が仕上げている。

もちろん実際にカルタ取りの会も行い、これには男性社員も参加した。この取組は新聞やテレビで報道されるなど大きな反響を呼んでいる。

「女性で取締役で衛生管理者」その立場を活かした取組

今年9月には厚生労働省で初めて開催された「働く女性と生理休暇に関するシンポジウム」に登壇したという。女性で取締役で衛生管理者という立場だからこそ、女性の思いを経営トップに伝えやすく、経営者の立場から活動事例を紹介することもできるのだ。

「最近うれしかったのは社員から『会社の愛を感じる』という声があったことです。社員の働きがいと生きがいがいい、幸福度アップを常に発信しながら取り組んできた成果がやっと出てきたかなと思いました」と。発信し続けることで社内外に仲間が増えてきたことを実感している。

「今後は家族の健康に関しても、もう少し踏み込みたいと思っています。今行っているのは、特定健診の案内をご家族宛にもお出しすることです。社長と協会けんぽが勧奨するチラシにプチギフトをつけてご家族にお渡しするのです。これで少しでも特定健診の受診率が上がれば、ご家族も含めた幸福度アップに繋がるかな、と期待しています」と、さらに幸福の輪を広げていく決意だ。

*ブライト500を取得した中小企業4社で構成。同社の他、サイショウ・エクスプレス株式会社、ルピナ中部工業株式会社、株式会社浅野製版所が参加。

会社概要

高木建設株式会社

事業内容：公共及び民間の建設・土木工事、住宅・店舗等新築・リフォーム工事、古民家再生事業、その他

創業：1934年

従業員：89名（2023年9月末現在）

所在地：長野県長野市

会社URL：<https://www.takagi-kk.co.jp/>